



林 はやし
昭三 しよしぞう



地域文化活動部門

概要

氏名 林 昭三
推薦団体 熊本市
主な活動地 熊本市

林昭三氏は、室町時代から人々の暮らしと結び付き、熊本県伝統的工芸品として広く認知されている川尻刃物の職人です。

氏は三代続く川尻刃物鍛冶屋の四男として生まれ、昭和二十二年の高校卒業後、鍛冶屋に従事されました。氏の包丁は、割込み鍛造、片刃鍛造という伝統的な技法を受け継ぎ、手作業で丁寧な時間をかけて作製されるため、工場で大量に生産されるものとは異なり、長年変わらない切れ味が特徴です。

また、鍛冶屋二軒を残すのみとなった状況を憂い、これまで川尻刃物の後継者を六人育成されるとともに、現在も弟子の育成に努めておられます。

さらに、平成二十六年には一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会から伝統工芸品産業大賞を受賞されました。

このように、氏は、伝統工芸である川尻刃物の保存継承を通じて、本県の文化振興に大きく貢献されています。

これまでの主な活動歴

昭和二十二年 熊本工業高校を卒業後、鍛冶屋に従事

昭和五十三年 第二回熊本県伝統工芸協会展で協会

長賞受賞

昭和五十四年 熊本県伝統的工芸品に指定

平成十一年 川尻刃物の消滅を懸念し、後継者育成を積極的に開始

平成二十五年 熊本市伝統工芸担い手育成事業に協力、後継者を育成

平成二十六年 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 伝統的工芸品産業大賞受賞